



写真・市谷 健 「たかい、たか〜い♪」

人生はリレー

先日、会社を退職された方たちの会合に出席させてもらいました。なつかしい笑顔の方ともお会いし、昔の話や現在の仕事、定年後の趣味など、あつと言う間に時間が過ぎてしまいました。一堂に会するのは初めてということでしたが、ほとんどの方は私が入社した頃はすでに精力的に活躍していた人たちで、多くのアドバイスをいただきました。

今年ダスキンは創業して五十年になります。ダスキンがまだ世に知られていなかった時代にご苦労くださった方、温かいまなざしで多くの後輩を指導してこられた方、こうして今日を迎えること

ができるのは、創業者の「喜びのタネをまこう」という呼びかけを、先輩の皆さんが全国の加盟店と共に受け継ぎ、育てる努力を続けてくださったお陰と感謝しています。

企業は終わりにきリレーであり、先輩が後輩に自らの経験や熱い思いを伝え、その後輩はまた、先輩として後に続く者に伝達していく。人生も同じではないでしょうか。生まれたときから、周囲の多くの方々の教えをいただき、その教えをまた若い人に伝えていく。生かされて生きていることを忘れず、日々感謝し、研鑽を続けなければと思っています。

株式会社ダスキン社長

山村輝治

読む人の
幸せを
心に願って
作る

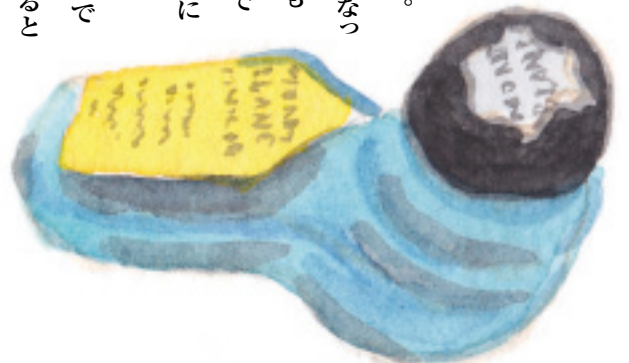
喜びの タネまき 新聞

no.535

古い考えかもしれないけれど、絵も文字も、手で書くのがいいと思う。とくに、心の扉を開けたときには。

「万年筆」

文章を書くこと
もずいぶん変わった。
なんでもデジタルになっ
て、電子メールはも
ちろん、仕事の原稿で
はそれが当たり前にな
っている。
でも、手紙は自筆で
書くのが、心が伝わると
ほくは思う。手帳、ノートに
綴るときは書きだし、もちろん、
絵もそうだ。



絵と文 中村みつを

イラストレーター、画家。
絵と文の作品は自然・旅・人がテーマで、
心の和む温かさ。読売新聞夕刊のみなみら
んぼうのエッセイ「一步二歩山歩」に挿絵を
描き、新聞連載最多記録14年目。日本山
岳会会員。著書に「のんびり山に帰るはのぼ
る」(山と溪谷社)、「お江戸超低山さんぽ」
(書肆侃侃房)、「森のくらし」(リヨン社)など。

あるとき友人が万年筆の話をは
じめた。もともと趣味人でカメラ
や時計など、話し出すとうんちく
が止まらない。うなずいていると、
革製のケースから見たことのない
万年筆がずらりと現れた。一本一
本に思い入れがあるようで、「親
父の形見でドイツ製だった。これ
がきっかけで、また使い出したん
だ」という。

入学祝いに親がくれ
たノック式。キャップ
の無い、片手でペン先
を出し入れする画期
的なアイデアが、当時、
話題になった。学生服の
胸ポケットに差し、「どう、大人に
見えるかい？」とうれしかった。
しかし中学生には鉛筆やシャー
ペンシルのほうが日常用具で、
万年筆の出番はほとんどなく、い
つのか忘れていた。ふたたび
万年筆を手にしたのは大人になっ
てから。イラストレーターとして



初めて原稿料をもらったとき、高
価だったが自分への褒美に買った。
漆黒のボディに金のクリップが眩
しく、小説家気取りになったり、
頼まれもしないサインの真似事を
してはひとり悦に入っていた。
けれど、実際にはまたしても宝
の持ち腐れ。一人前の男にはほど
遠く、万年筆を使う場面は少なく
て、たまに書く手紙くらいだった。
いつしか、「あの万年筆、どこへ
行ったんでしょうね」と引越の時
に思い出すくらいになった。
友人の自慢の万年筆のひとつを
試し書きさせてもらった。インク
の文字がなつかしく、書くことが
新鮮に思えた。もしかしたらまだ
見つかるかもしれない。そんな淡
い期待を持ちながら、あの子の
堂々とした万年筆をいまでも探して
いる。

サクッと作ろう！「ラスク・3種」

手軽な材料でバリエーションも豊富。見た目もカワイイ、まさに一石三鳥！
抹茶味とシナモン味はお子様のおやつ、カレー味はお父さんのビールのおつまみにどうぞ。

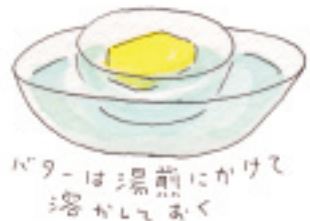


お料理研究家 こいけりえ

おやつ時間 簡単、美味しい楽ラクレシピ



●作り方(1種10個分程度)
●ラスク作り
六枚切りの食パン4
枚を用意し、パンの
耳の部分を使用し
ます。耳はパンの白
い部分を1cm強くら
い残して切り、さら
に2等分にする。
150℃に予熱し
ておいたオーブン皿
にクッキングシート
を敷いてパンの耳を
並べ、15〜16分焼
く。
焼いている間に、パ
ター60gを湯煎で溶
かしておく。



バターは湯煎にかけて溶かしておく



パンの耳は半分にし、白い部分は1cm強

●仕上げ
こんがり焼きたら、抹茶ラスク
には、抹茶を彩りよく少々振りかけ、シ
ナモンラスクには、シナモンシュガーを
振りかけて香りを出す。カレーラスクには
パルミジャーノチーズを少々振りかけて、マ
イルドな味に仕上げる。出来たての美味
しさは格別ですが、冷めてもよい味です。
残ったものを保存するなら、密閉容器がお
すすめです。



できあがり♪

●味付け
オーブンでカリッと焼き上げたパンの耳
は、一度出して溶かしバターにくぐらせ、
用意しておいた3種類のパウダーを各10個



「ほら、赤ちゃん、来たの♪」
香川県高松市 河野理恵



うれしくて～歌ってるの～
愛知県春日井市 川合正義



おでこのハンコは元気の願い
群馬県館林市 渡邊幸子

家族や友だちにしか撮れないステキな笑
顔、みんなに見てもらいたいわたし好みの
1枚。もちろんかわいいペットも撮れたら
送ってください。お待ちしております！
(詳細は7ページ)



心の中の静かであたたかな場所をイメージして作っています。これはツル草です。

浅井さんが織物を始めたのは「なんとなくなく」だそう。話す口調にふわっとした空気感がただよ。でも、織りはしっかりした根気のいる仕事。

毎日、織機に向かう。「たてよこ日記」と自身のブログに記したように、織りは縦糸と横糸がなくては作品にならない。ノートにはアイデアや友だちとの会話のメモ、落書きがいっぱい。

「よし、考えるぞと思うと、アイデアって見つからないんです。出かけた話したりしてイメージが浮かぶんです」それを図案に起こすのは、また別の作業。頭の中にあるものを方眼紙に書いて、手の作業に移して行く。

「でも、織ってみると、あれ、この色はもう少し多くしないと、馬に見えないとか。イメージを形にするのは難しい。遊牧民の人は方眼紙が頭の中にあるみたいですけど」

織りや染色に「流れで」親しみ、たまたま、京都の有名な作家の染織工房に採用された。その先生と叔父が同級生という縁で、スタッフとして24歳から3年間住み込みで働いた。「修業に行つてから10年以上になりますね」

故郷で待っていた工務店に勤める彼と結婚し、子供も生まれた。ごく自然に順調にこの道を歩んできたのかと思ったら、「そうじゃないの。結婚して子供ができて、自由自在にできなくてもどかしいと思いがらやってきました」

一生続ける仕事があればいいなあと、家の手直しをした時に空いたスペースを、「ここはわたしの部屋」と決めた。以来、ノッティング織りの工房だ。ノットは結び目。横糸を通し、結んでは切り、結んでは切り。ハサミを使い続けて手を切ることもある。頼まれて教えたこと

もあるが、ハサミでケガする事を考えると、教えるのはちょっとこわいとか。ずっと一日中織っていると、腰痛になるので、「犬に散歩に行つてもらっているみたい」と笑った。作品のウールみたいに温かい人。「これは出来上がったから洗うんです。タワシでこすると表面の風合いがきちんとなじんで、ふわっとなり、一年中使える。個展の時は家で使っている物を見てもらうんですよ」

出会った人からヒントをもらうのは面白い。「友だちが手袋を落としたと聞いたので、子ネズミの図案を考えたの。落とした手袋に動物が入るウケライナの童話です。馬の柄は乗って遊ぶベビー用オモチャから」話はずきない。

インターネットや個展で浅井さんの作品を見たら、織りこんだ物語を想像するのも楽しいですね。

物語のあるウール織り

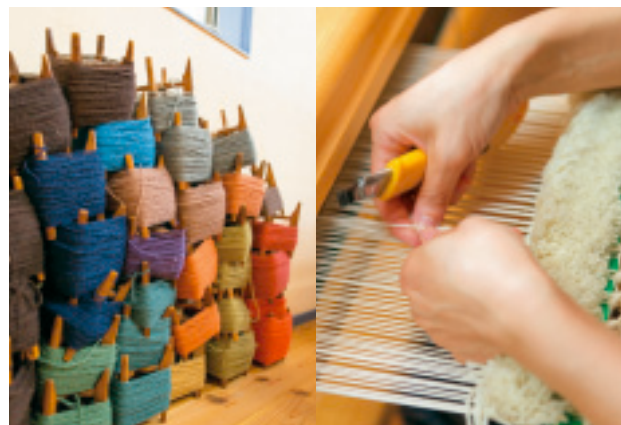
「たてよこ日記」の浅井洋子さん(富山市 36歳)



出会いで導かれて織りを仕事にするようになったという浅井洋子さん。オリジナルの愛らしい柄に引かれて富山の工房をお訪ねした。地道に腕を磨き、東京や京都で作品展に参加する。地域でしっかり物作りをする女性が増えているのを知ると、頼もしい気がします。



一生使えるように。そう思って作ります。



糸は自分で染め、すごい量を1本1本結んでは切る。



1枚の織り物なのにふわっと密な弾力のクッションです。



十五夜

栃木県足利市 片山博治

子どもの頃、十五夜は秋の楽しみだった。縁側にテールを出して、とってきたススキと15個の団子を飾る。夕方暗くなる空に、満月が出てくるのを楽しみに見ていた。月の影を見て、餅をつく兔を想像し、秋が来たのを感じた。

まだ食物も不足していた時代で、近所のワンパク坊主が、ヤスを持ってきて団子を突いて盗んでいく。これも、その土地の風習となっていて、誰か来るなど感じて、気付いてないフリをするものだった。普段は食べられない栗や柿、ザク口などを口に出来るのも嬉しかった。

『月々に月見る月は多けれど 月見る月はこの月の月』まさに十五夜の晩は、その日だなあと、うなずいてしまいます。

——情緒があつて、懐かしいですね。



借り人競争

北海道帯広市 伊藤あゆ子

小学4年生の孫娘の運動会でのこと。個人種目は「借り人競争」です。カードに書かれている人を探し出し一緒にゴールするのですが、内気な孫は何日も前から、「どうしよう」を連発していました。

さて当日、カードを手にした孫は首をひねっています。カードはかなり大きなもの。皆の方に見せなさい、と教えるのだった。気づいても後の祭りと思つたら、孫娘は観客席に向かつてパツと揚げ、すぐ一人の若い男性が、前列の人達をまたぐように飛び出して来て、孫の手をつかみ、ゴールめがけて一目散！見事！着でした。

お昼の時に、「何て書いてあったの？」と聞くと、「ハンサムな人」と孫。その自信に満ちた横顔を見ながら、私は「ハンサムな人」に心の中で手を合わせました。

——ありがとう！ありがとう！



ツバメ

三重県名張市 内海繁一

我が家の前に小さな集会所があります。5月頃、その集会所の入口の上に、ツバメが巣を作りました。すぐにかわいいヒナが4羽誕生。ある朝、カラスがヒナを狙っていたので、急いで竹の棒でカラスのとまっている電柱を叩いて追い払いました。すると、翌朝から毎日親ツバメが電線に止まり、こちらに羽を広げてチィチィと鳴くようになりました。やがてヒナは成長し、近所の他のツバメと一緒に飛んでいきましたが、8月に入ると1羽も見かけなくなりました。私は南の国へわたったものだと思っていました。

8月下旬、朝家の前の電線に20羽くらいのツバメがとまっています。南へ行く前に挨拶をしに来てくれたようで嬉しくなりました。

「来年もまた来てね」思わず呼びかけました。15分ほどとまっていたツバメたちは一斉に飛び立っていきました。感慨にふけてしまい、その晩はなんだか寝られませんでした。

——かわいさに感動の一日。



ウォーキング

兵庫県姫路市 浜本礼子

早いもので夜の散歩は5年目を迎えた。体力維持を目的に最初は一人、それがいつの間にか近所の友も加わって、今では三人で1時間ほど歩いている。会話はほとんどが介護と孫の話。昨年1ヶ月ほど娘の出産で家におらず、散歩を休んでいた。私が抜けた後、今日は寒いから、今日はしんどいからと、色々な言い訳をして休んでいたようだが、私がメールで「歩いてる？」と送るので、二人とも一人になっても頑張つて歩くようになり、「偉いやろ！」と嬉しいメールが届くようになった。

毎日の散歩のお陰で、海外旅行でも足の痛みは全くなく、体力にも自信がついた三人。今は30分の日もあります。小雨でも傘をさして歩いたり、素敵な発見をしたり。日々続けられることに感謝しながら今日も歩いています。

——気まが長続きのココロ



お気に入り

京都府和束町 杉本美代

夏の終わり、この夏に着る機会がなかった、お気に入りのサマーセーターで出かけました。ちょっと派手だけど、大好きな色と柄です。出かけた帰り道、ふと立ち寄ったお店で、「わあー！きれいに編んであるね。それに良い色。自分で編んだの？すごい手間物ですね」と初老のご婦人に声をかけられた。

「いえ。母が編んでくれたんです」と言うと、「上手ですね。ちょっと触らせて」ほんの4、5分の立ち話でしたが、自分が褒められたように嬉しかった。「お母さまを大切にね」と優しく一声をいただき、爽やかな印象のご婦人と別れました。私が編んだものではないけれど、るるんと心が躍る一日になりました。

——手編みには、編み手の心がこもっていますね。



またね

長野県木曾町 小坂貞子

夏休みを利用して、一か月近く帰省していた娘と孫たちが自宅のある宮城へ帰る日、「バイバイ」という孫に、「またね。元気でね」と言うと、「ばあば、淋しそうじゃないね」と7才の孫。それを聞いた娘が「ばあば、我慢してるんだよ。」と言うと、それまでこらえていた私の目から、涙がポロポロと流れてきた。その様子を見た7歳の孫が「ぼくもここで我慢してるんだよ」とお腹の周りを手で触つてみせた。1歳になる孫の方は、車の窓からバイバイと見えなくなるまで手を振っていた。

誰も居なくなった家に一人、淋しいやらホッとするやら。そんな感傷に浸っている暇もなく、洗濯に追われた一日でした。

——かわいなあ。



三重県伊勢市 林律子

思い出の夏の日

本日の幸せ

創立記念日、入社記念日
洗礼を受けた日、あるいは失恋の日
泣いた日、なんでもよい

自分だけの記念日をもちなさい。
忘れないために
そしてまた、思い出すたびに

あの記念の日から
成長したか、退歩か
それをふりかえるのも
楽しい人生ではないか！

鈴木清一

あなたのお便りや写真をお寄せください

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先
〒163-0223
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号
新宿住友ビル23階(私書箱47号)

ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
電話 03(5909)6703
e-mail:koho4@mail.duskin.co.jp

No.419からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます
<http://www.duskin.co.jp/torikumi/tanemaki/index.html>

4-5ページの浅井洋子さんの連絡先

メール:chestaro@pf.ctt.ne.jp
携帯:080-3748-6372(作業中ではられない場合があります)
ブログ:<http://twingleaf2006.jugem.jp/>

作品の展示と個展の予定

- 野外展 「工房からの風 craft in action」 2013年10月12、13日
〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-1ニッケコルトンプラザ
TEL:047-378-3551
- 個展 2014年1月4日～17日
〒606-8184 京都府京都市左京区一乗寺弘殿町10
恵文社 生活館ミニギャラリー TEL:075-711-5919

愛の輪からのコラム

from AINOWA

人にやさしいグローバルな視点って？

気づいて配慮するきっかけをつくる「Deaf」Tシャツ



ママと赤ちゃんを描いたマタニティマークは、妊娠初期から周囲が気づいて配慮できる目印です。他にも外見からはわからない聴覚に障がいのある人が、耳のマークや聴覚障がいを意味する英語「Deaf(デフ)」をデザインしたTシャツなどを色々な国で自発的に身につけ始めています。見かけた人が緊急アナウンスを筆談やジェスチャーなどで伝え、相手の安全に気を配るきっかけになっています。

このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。
☎06-6821-5270 HP (<http://www.ainowa.jp/>)
愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修支援を行っています。



エアコンクリーニングは
ダスキンサービスマスターが
独自にはじめました!

1971年ダスキンはアメリカのサービス
マスター社と提携し「プロのおそうじ
サービス」を開始しました。1991年エア
コン普及に伴い、日本独自にエアコンの
内部を洗浄する「エアコンクリーニング」
を開発。また、アメリカ式のシステムおそ
うじに「白木クリーニング」「シャンデリア
クリーニング」「洗濯機クリーニング」な
ど日本独自のメニューを加え、キレイを
お届けしています。

プロの
おそうじね〜



エアコンの
中までキレイに
します!

1991年

あなたの **声** が原点です。

私たちは、そのお声とともに歩みつづけます。

ダスキンが大切にしたいのは、あなたの声——。
ぜひ、あなたの想いをお聞かせください。

お客様の声はインターネットにて承っております。

ダスキンお客様の声

検索

www.duskin.jp/voice

今号のキーワード

「クリーニング」

ハガキに書いてご応募ください!



抽選で30名様に
「バスセレクションセット」を
プレゼント!



下記の要領でご応募ください。

●ハガキに

- ①今号のキーワード ②郵便番号 ③住所 ④氏名 ⑤年齢
 - ⑥性別 ⑦電話番号 ⑧ご利用のダスキン店名
 - ⑨この新聞内で好きなコーナー
 - ⑩ダスキンとの印象深い思い出
- をご記入の上、下記であて先までお送りください。

●応募専用のあて先 **※郵便番号とあて先のみで届きます。**
〒163-0265 住所は不要です。

(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞no.535」プレゼント係

- 締め切り 平成25年11月1日(金)当日消印有効
- 当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。(平成25年11月下旬お届け予定)
- 応募に関してのお問い合わせ TEL:03-5909-6703

※抽選結果に関するお問い合わせはお受けできません。予めご了承ください。
※ダスキン関係者の応募はご遠慮ください。

今回ご応募いただいた個人情報は、(株)ダスキンにおいてプレゼントの抽選や賞品の発送に利用させていただきます。ご記入いただいたコメントに関しては、弊社ホームページ「ダスキン50周年記念ページ」上に掲載させていただく場合がございます。掲載内容:コメント、都道府県、性別、年齢(但し、掲載させていただく際に、コメントの文意を変えない範囲で編集をする場合がございます)。個人情報に関するお問い合わせやご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」プレゼント係(TEL:03-5909-6703)までご連絡ください。

●この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行: 広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

編集: 「喜びのタネまき新聞」編集室

〒163-0223

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)

TEL:03-5909-6703 FAX:03-5909-6771

【お客様の個人情報の取り扱いについて】

お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

0120-100100 www.duskin.co.jp